

## 第5回「公の施設に係る受益と負担のあり方検討懇話会」記録

1. 日 時： 平成29年11月21日（火） 14時～15時

2. 場 所： 小倉北区役所庁舎 8階 812会議室

3. 出席者： [構成員] ※五十音順・敬称略

(勢一智子構成員、篠塚忠二構成員及び宮地久男構成員は欠席)

関西学院大学 経営戦略研究科 教授 石原 俊彦

北九州市PTA協議会 副会長 上田 真奈美

NPO法人チャイルドケアサポートセンター代表 鶴田 貴豊

北九州市立大学 地域創生学群3年生 原田 ひかる

株式会社 七尾製菓 代表取締役社長 原田 緑

北九州市立大学 地域創生学群4年生 前田 将宏

[市 側]

北九州市副市長 今永 博

北九州市企画調整局長 西田 幸生

北九州市企画調整局

都市マネジメント政策部長 丹田 健二

都市マネジメント政策部 都市マネジメント政策課長 佐野 文久

都市マネジメント政策部 都市マネジメント政策担当課長 徳永 篤司

ほか21名

4. 議 事： 公の施設に係る受益と負担のあり方について（素案）のパブリックコメントの結果について

### 今永副市長 挨拶

前回の懇話会では、「公の施設に係る受益と負担のあり方について」（素案）に盛り込む内容等についてご議論いただいた。

8月17日から素案等に関する市民説明会を各区で行い、305名の市民に対してご説明し、多くのご意見をいただいた。8月17日から9月15日まで、素案に対する市民意見募集も実施し、227名・団体からご意見をいただいた。

また、11月10日には市議会の常任委員会（総務財政委員会）において市民意見募集結果をご報告し、ご意見をいただいた。

皆さまからも活発なご議論と忌憚のないご意見をお願いしたい。

## 石原座長 ご挨拶

私たち構成員が議論をし、とりまとめた素案について、各方面からご意見をいただいているとのことである。そのことを踏まえて、私たちも責任をもって、市にとって必要な施設を持続可能とするためにはどうあるべきかについて議論してまいりたい。

## 議事項目：公の施設に係る受益と負担のあり方について（素案）のパブリックコメントの結果について

### 都市マネジメント政策担当課長による説明（資料2及び3）

#### 構成員の主な発言要旨（○：構成員、●：市側）

○： 意見の中には、高齢の方からの反対意見もあったが、一定の理解を示してくださっている方もたくさんおられた。値上げも必要な取組みだとは思うものの、ヘビーユーザーに対する年間パスポートや定期券などの対応は必要なのではないかな。

意見の中に、「健康寿命」という言葉がたくさん出てきた。その「健康寿命」を延ばすためにも多くの方に施設を利用していただきたいので、そのあたりを踏まえた料金設定をお願いしたい。

○： 意見を拝見して、全体的に賛成意見が少ないような印象を受けた。しかしながら、資料3の5ページ、23番のような若い世代からの意見（「いずれ我々の世代の借金になるので、経費のかかる施設をわざわざ残してもらわなくてもいい」「今は民間にもいい施設がいっぱいあるので、『公』の部分は整理して、本当に困っている人たちのために役立ててほしい」「僕たちの知らないところで、僕たちにつけを回すのだけは絶対にやめてほしい」など）についても納得ができる。

若い世代の中には、公共施設を使っていない人も多い。今の高齢世代の方が、若い頃から公共施設を使っていたのか、高齢になってから使うようになったのかはわからないが、今の若い世代が今ある公共施設をいずれ使うようになるのかは疑問である。そういう長期的な視点で、公共施設のあり方について考えることも大切だと思う。

○： 若い世代が声を出していないのは問題だとは思いますが、実際に使う立場であれば意見を言うだろうし、使わない立場であれば「自分たちで使うものは、自分たちで払って当たり前」と思うのだろう。

様々な意見がある中で、答えを出すのは非常に難しいのだが、利用者負担を増やすことやヘビーユーザー対策については概ね賛成である。ただ、意見を踏まえて高齢者の負担割合を下げる必要があるのか、疑問に感じる部分もある。

○： 今回の受益者負担割合については、管理運営コストの部分のみをベースに設定されており、減価償却費については税金等で賄っている。プールや市民センターなどを、市民が使いたいときにいつでも使えるようにしておくこと、すなわち「場の設定」（建物建設に係る

固定費)については、利用者に公共料金として直接の負担は求めている。

利用する際に発生する管理運営コストの一部(変動費)をいただくことを提案している  
のであり、料金をもらうべきかどうかの線引きは非常に難しいが、必要性について市民の  
方にきちんと説明することが大切だと思う。

- ： 公共料金を値上げする案であることから、意見提出者の7割くらいが反対なのだろうと  
思っていたが、361件の意見のうち、157件については賛成的な意見であり、そういう意味  
では北九州市民がしっかりとした考えを持っているという風を感じた。

意見提出者の年齢層はわからないが、内容からして、値上げを懸念する高齢者からの意  
見が多い。若い世代や子育て世代の意見がもっと出てきたらよかったのと思う。

「値上げはしたけれども、こういう設備がよくなりました」といった情報発信や提示を  
していけば、市民の理解も得やすくなるのではないか。

- ： 年齢構成までは断言はできないが、パブリックコメントの意見提出者も、市民説明会へ  
の出席者についても、比較的年配の方が多かったようには思う。あり方が成案となっ  
たら条例改正等の手続きに入るが、引き続きすべての世代の方に対して丁寧に説明をしてい  
きたい。

今回の値上げによる増収部分については、施設改善等にに使わせていただきたい。

- ： 北九州市は、全国でも50歳以上の方が住みたいまちナンバーワンである。気候のことや  
地震の少なさなどもあるだろうが、公共施設が整っていることも理由の一つではないか。

意見を見ると、年配者が多さを改めて感じる。個人的には、もう少し値上げしてもいい  
のではないだろうかと思っているが。

- ： ムーブで開催されるフィットネスに通っておられた若いお母さんと話す機会があつたの  
だが、「ご高齢の方が朝早くやって来て、枠を押しえられるので、フィットネスを利用でき  
ない。朝の時間帯は忙しいので、子育て世代がそんな時間帯に枠を押しえには行けない」  
とのことであった。つまり、子育て世代の親が行くところがなくて困っているという実態  
があることも知っていただきたい。

- ： 若いときに仕事を頑張って、今の日本を築いたのは高齢者の皆さんだと思うので、大事  
にしないといけない。ただ、自分たちのことは自分たちで管理すべきだと思うし、もう  
少し負担をプラスしてもいいのではないだろうか。若い人たちの中には収入があまりない  
人もいるので、そのあたりの調整ができるといいと思う。

- ： 「年長者施設利用証」の提示により、高齢者の方からは公共施設の利用料金をご負担い  
ただいていないという実態がある。今回の見直しによって、基礎となる使用料は上がる、  
負担額も発生するとなると二重の負担が一気に発生することになるのはダブルパンチであ  
るといったご意見もあつたことから、一定の配慮が必要であると判断したところ。そのた  
め、高齢者減免の部分については修正させていただきたい。

負担ゼロの現状から、一定のご負担を求めていくという方向の転換自体が大事だと思っている。

○： 子育て世代や若い世代が公共施設を利用する際の減免制度はないが、財源が限られている中では、新たに減免制度を設けることも難しいことは理解している。ただ、そういう子育て世代や若い世代に関する意見が構成員からあったということについては、市としてご留意いただければと思う。

●： 本日ご欠席の構成員から、事前に以下のご意見をいただいているのでご紹介する。

(以下、いただいたご意見)

今回のような取組みは、継続的にPDCAサイクルを回していくことが重要である。次回の見直しのタイミングや、何を契機に見直しを行うのかなどをしっかりと決めておくこと、また全体の収支バランスを継続的に押さえていくことも必要である。つまり、具体の受益を管理コストとして「見える化」して、利用者に負担を求めるという「原則」を貫くことが大事である。懇話会での議論したことなどを示しつつ、不断の見直しをお願いしたい。

地域コミュニティのための施設について、住民が自ら施設の運営に携わることによって管理コストが低減されるのであれば、少ない費用負担で利用できるようにするなど、住民がメリットを享受できるような制度運営的な工夫もありうるのではないかと。そうした運営が可能になれば、地域コミュニティの維持につながるなどの相乗効果も期待できると思う。

また、今回のような将来に向けた施策は、地域全体で議論していくことが重要である。そのためには、議論できるだけの情報を行政側がきちんと公開していかなければならない。

回数券の割引率拡大の案については、増収を求める市側と、負担増を避けたい利用者側の双方にとって有効な手段だと思う。

○： 今年、ノーベル経済学賞を受賞したシカゴ大学のリチャード・セイラー教授（行動経済学）によれば、人間の行動というのは合理的ではないが、「ナッジ」(Nudge) という小さな情報を提供するとあるべき方向に向かうとのことである。

つまり、役所も様々な情報を公開・提供されているとは思いますが、できる限り市民に分かりやすく情報を提示することで、市民の理解や行動も変わってくるはずである。

是非、今回の見直しをきっかけに、これから進む少子高齢化や人口構成の変化などの基本的な情報について、市民にわかりやすく情報提供して欲しい。

●： 若い世代やヘビーユーザーへの対応、PDCAサイクルの重要性、情報公開のあり方など、様々なご意見をいただいている。今回の見直しは、今後の公共施設の改善・改修に必要なものであるということについても、市民に対して丁寧に説明してまいりたい。

○： 否定的な意見が目立ってしまうのは、否定的な意見のほうが言いやすいし、伝えたい気持ちや思いの強さの表れだと思う。若い世代からの意見が少ないのは、「自分には関係ない」「使っていないからいいや」といった、関心のなさでもあるのかもしれない。

これだけのいい意見が実際に提出されているということは、もっとたくさんいい意見が市民の間にあるのだろうと、肯定的に捉えている。

●： 本市においても、様々な意見募集手続きを行っているが、その中でも今回は特に多くのご意見を提出いただいている。当初、反対意見が多いのではないかと考えていたのだが、これだけ多様なご意見が寄せられたということは、市の財政状況や公共施設についてよくお考えいただいた結果ではないかと考えている。

○： 昔は、世の中や地域を作っていくのは「お金」、つまり資本主義が中心であり、都会がその中核となっていたような側面がある。

しかし、藻谷浩介氏が提唱する「里山資本主義」においては、「お金」が資本なのではなく、地域や地方の農産物や普段の生活のあり方などのちょっとしたものが、地域づくりやまちづくりの元手になることへの気づきを促している。

その考え方がもっと進展したものとして、ヨーロッパなどでは「フィランソロ・キャピタリズム」(Philanthrocapitalism)という考え方がある。一番近い訳としては「博愛資本主義」であり、世の中を形成する元手になるのは互いが互いを慮ることであり、自分のメリット・利益も追求しつつ、自治体のマネジメントのあり方などを考えていくことの大切さなどが示されている。

一定の財源の中で、公共施設の持続可能性を議論していく際には、できるだけ情報を公開しつつ、互いが互いを慮ることが重要であると思う。

○： 言わなければ済むこともあったのだが、構成員に選任された責任感から、北九州市のためを思いつつ、辛い思いもしながら、値上げの必要性について述べさせていただいてきた。

施設がどんどん老朽化していく中で、負担がさらに増えていくのではないかといった点も懸念している。「あり方」についての定期的な見直しを行うだけでなく、維持していくことが必要な施設、そうではない施設などの整理も必要だと思う。

## 本懇話会の報告内容についてご承諾

### 今永副市長 挨拶

5回の検討懇話会の中で、それぞれの立場から幅広い視点でご意見をいただき、感謝申し上げます。

一番よかったのは、公共施設について考える機会を持ったこと、多くの方に考えていただいたことだと思う。

2年前に策定した「北九州市公共施設マネジメント実行計画」を踏まえ、取組みをさらに進めていきたいとは考えているものの、反対意見に直面することも少なくない。PDCAサイクルで見直すこと、できる限り情報公開すること、原則を曲げないことを大事にしながら、丁寧な説明を心がけ、不断の見直しに努めてまいりたい。

## 事務局より事務連絡後、散会